

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書



基準日: 2023年2月28日

設定・運用: ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

ファンド概況

Aコース(為替ヘッジあり)

基準価額・純資産総額

基準価額 11,465円

純資産総額 51.8億円

税引前分配金実績(一万口あたり)

第1期	2019年3月	0円
第2期	2020年3月	0円
第3期	2021年3月	0円
第4期	2022年3月	0円
第5期	-	-
設定来累計		0円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

<決算日>

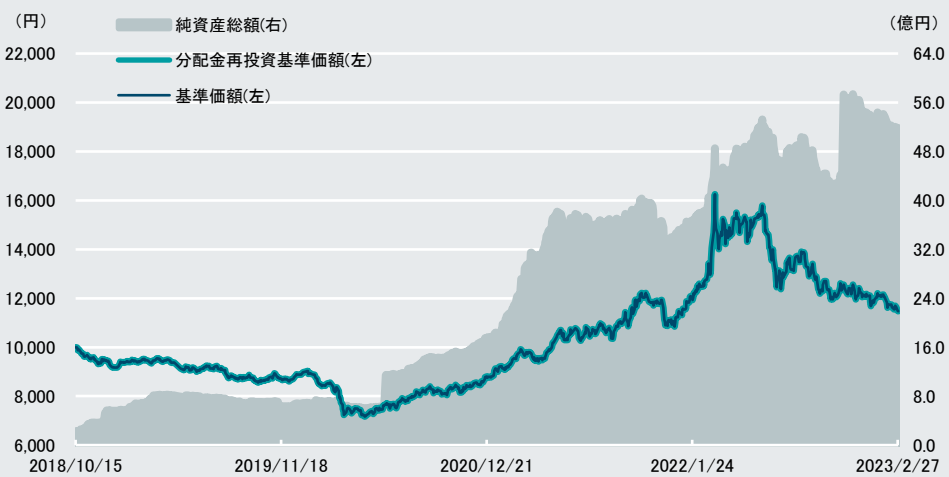
(原則)毎年3月5日

ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日を決算日とします。

運用実績

Aコース(為替ヘッジあり)

設定来の基準価額の推移



(設定日) ※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しております。ただし、設定来の分配金が0円のファンドにつきましては基準価額と重なって表示されております。
※基準価額の推移は、信託報酬控除後の価額を表示しております。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
Aコース(為替ヘッジあり)	-4.91%	-7.14%	-15.68%	-11.53%	39.04%	14.65%

Bコース(為替ヘッジなし)

基準価額・純資産総額

基準価額 15,020円

純資産総額 75.0億円

税引前分配金実績(一万口あたり)

第1期	2019年3月	0円
第2期	2020年3月	0円
第3期	2021年3月	0円
第4期	2022年3月	0円
第5期	-	-
設定来累計		0円

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

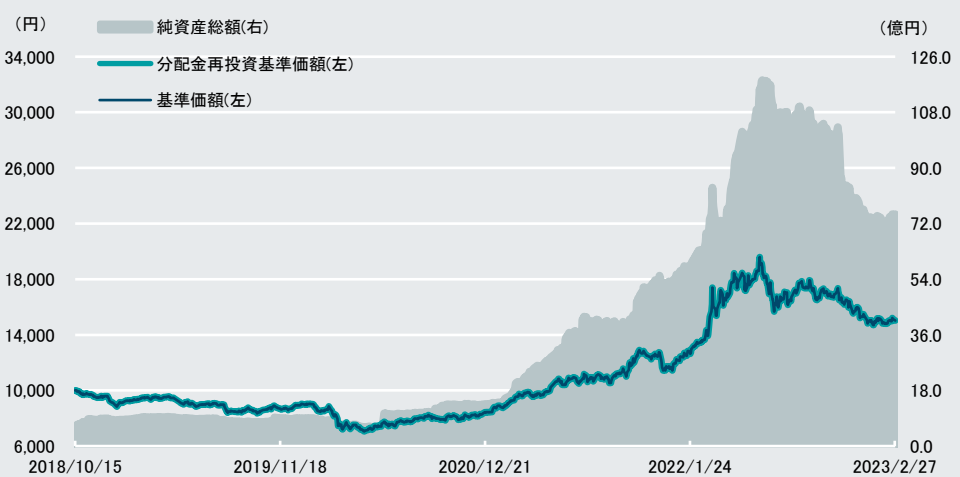
<決算日>

(原則)毎年3月5日

ただし、当該日が休業日の場合は翌営業日を決算日とします。

Bコース(為替ヘッジなし)

設定来の基準価額の推移



(設定日) ※分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しております。ただし、設定来の分配金が0円のファンドにつきましては基準価額と重なって表示されております。
※基準価額の推移は、信託報酬控除後の価額を表示しております。

騰落率(税引前分配金込)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
Bコース(為替ヘッジなし)	-0.44%	-7.53%	-14.59%	7.94%	79.75%	50.20%

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)



追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書

基準日: 2023年2月28日

設定・運用: ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

ファンドの組入状況(DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)各コース)

Aコース(為替ヘッジあり)		Bコース(為替ヘッジなし)		各組入比率は、各コースの純資産総額に対する比率を表示しています。
DWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー (円ヘッジシェアクラス)	97.9%	DWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー (円ヘッジなしシェアクラス)	96.9%	
ドイツ・円・マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%	ドイツ・円・マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%	
現金等	2.1%	現金等	3.1%	
合計	100.0%	合計	100.0%	

ポートフォリオの状況(DWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー)

ポートフォリオ 及び 各戦略の投資ウェイト

	Bloomberg Commodity Index Total Return	DWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー ポートフォリオ	エンハンスド・ベータ・モメンタム戦略 コモディティ投資ウェイト	レティブ・バリュー・アルファ戦略、戦術的/ヘッジ・アルファ戦略 コモディティ投資ウェイト
農産物類	30.32%	30.63%	30.63%	0.00%
エネルギー類	29.57%	16.56%	23.19%	-6.63%
産業金属類	16.04%	15.12%	13.18%	1.94%
畜産物類	5.39%	5.44%	5.44%	0.00%
貴金属類	18.68%	20.69%	15.14%	5.54%
合計	100.00%	88.44%	87.59%	0.85%

※ このコラムは、Bloomberg Commodity Index Total Returnのセクター別比率を示しています。

※ このコラムは、当ファンドの主要投資対象であるDWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー内で右記の戦略(エンハンスド・ベータ・モメンタム戦略、レティブ・バリュー・アルファ戦略、戦術的/ヘッジ・アルファ戦略)適用後の最終的な各セクター別比率を示しています。

※ このコラムは、エンハンスド・ベータ・モメンタム戦略における投資ウェイト調整後のセクター別比率を示しています。

※ このコラムは、レティブ・バリュー・アルファ戦略、戦術的/ヘッジ・アルファ戦略におけるオーバーウェイト、又はアンダーウェイトを示しています。

※ 米ドルベース

組入上位10銘柄

銘柄	比率
金	17.42%
銅	6.33%
ブレント原油	6.20%
大豆	5.99%
とうもろこし	5.54%
大豆粕	3.64%
生牛	3.56%
アルミニウム	3.46%
コーヒー	3.44%
銀	3.26%
組入上位10銘柄合計	58.83%

※ 米ドルベース
出所: DWS

ポートフォリオの状況(ドイツ・円・マネー・マーケット・マザーファンド)

銘柄	比率
-	-
組入銘柄数: 0銘柄	組入上位0銘柄合計
	0.0%

※ 組入比率は、ドイツ・円・マネー・マーケット・マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しています。

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

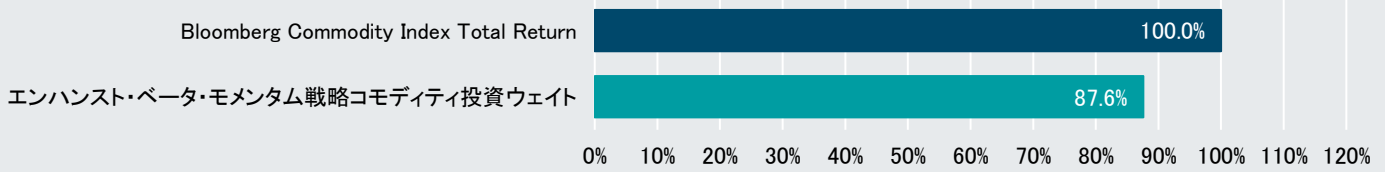
月次報告書



基準日: 2023年2月28日

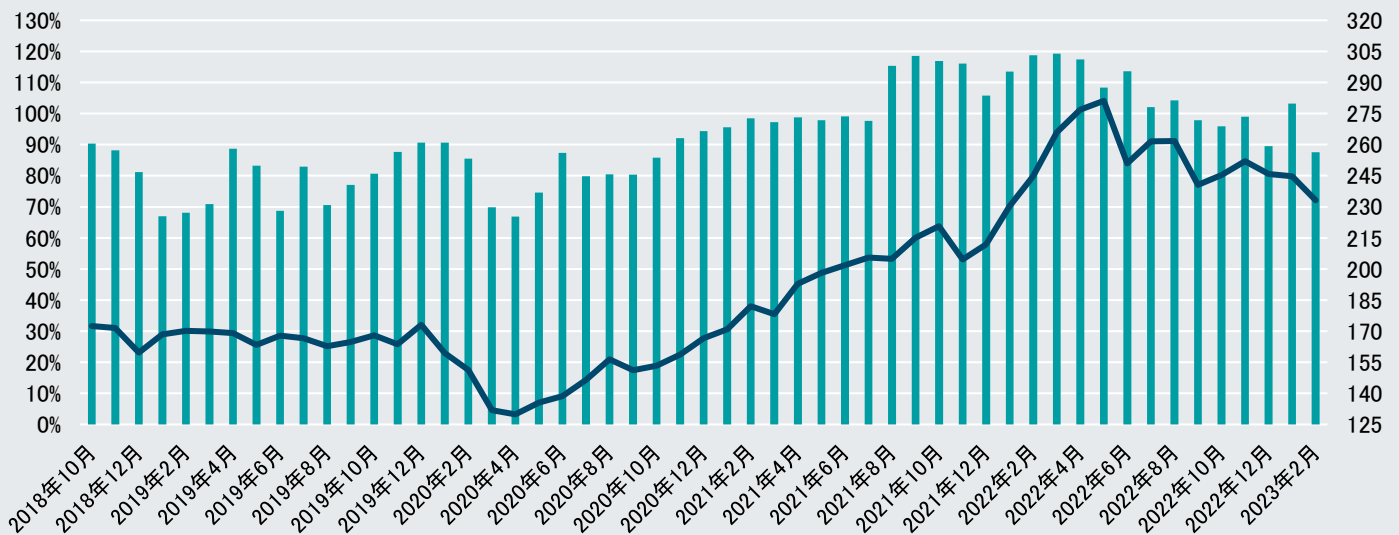
設定・運用: ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

Bloomberg Commodity Index Total Return及びエンハンスド・ベータ・モメンタム戦略コモディティ投資ウェイトの比較



※ 米ドルベース

エンハンスド・ベータ・モメンタム戦略コモディティ投資ウェイト及びBloomberg Commodity Index Total Returnの推移



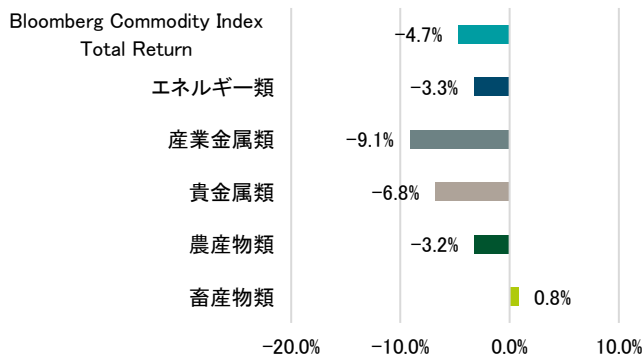
■ エンハンスド・ベータ・モメンタム戦略コモディティ投資ウェイト(左軸) — Bloomberg Commodity Index Total Return(右軸)

※ 米ドルベース

※ Bloomberg Commodity Index Total Returnは、複数の商品先物から構成され、広範に分散されたインデックスです。DWS コモディティ戦略ファンドの主要投資対象であるDWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジーのベンチマークです。(DWS コモディティ戦略ファンドのベンチマークではありません。傾向を見るための参考値としてご参照ください。)

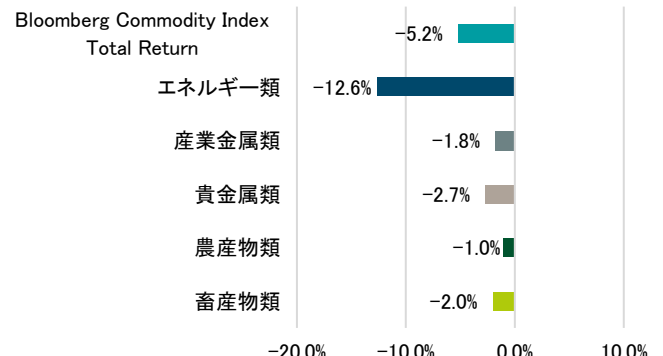
出所: DWS

月次騰落率



※米ドルベース

年次騰落率



※米ドルベース

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

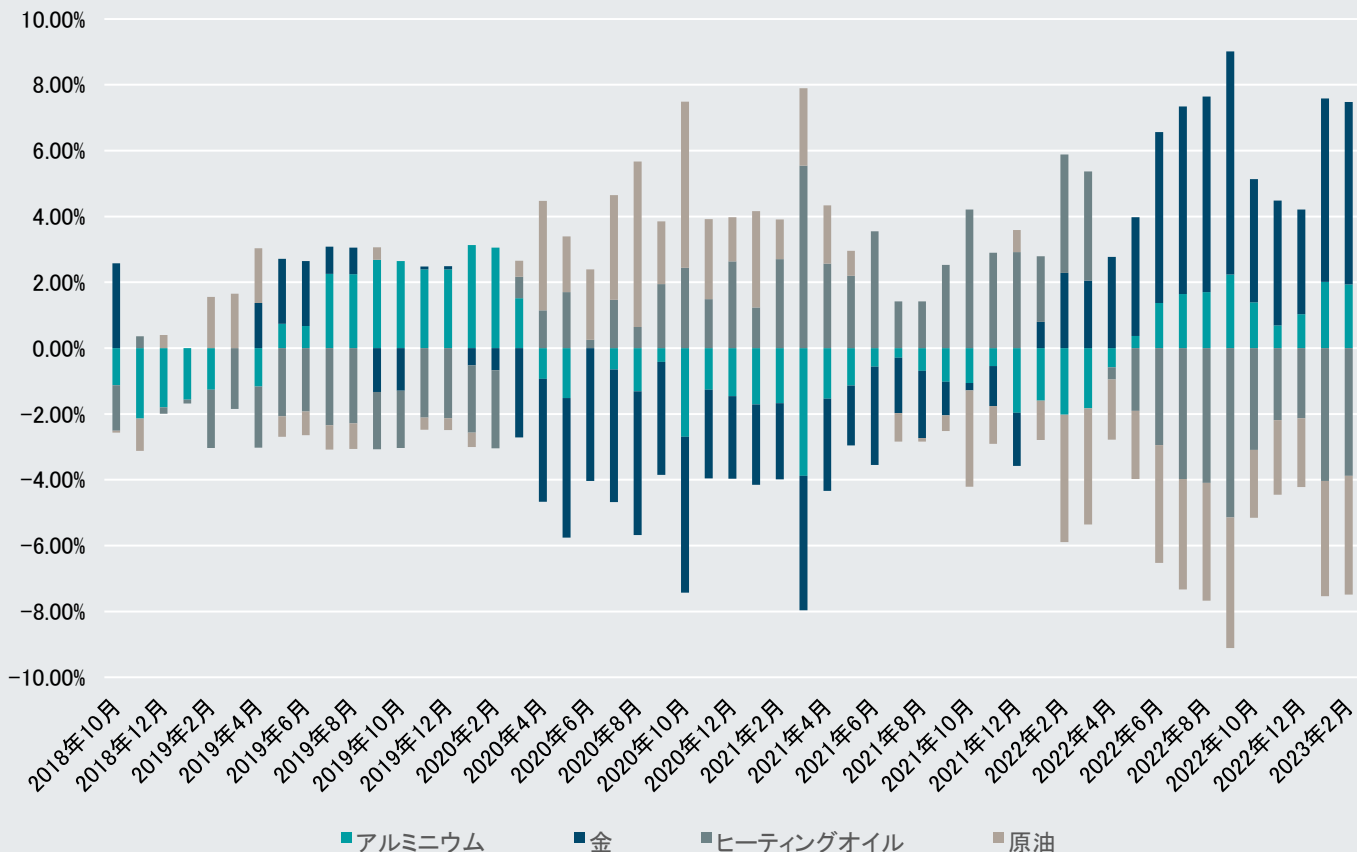
月次報告書



基準日: 2023年2月28日

設定・運用: ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

レタティブ・バリュー・アルファ戦略 コモディティ投資ウェイトの推移



※ 米ドルベース
出所: DWS

上記グラフは、レタティブ・バリュー・アルファ戦略、戦術的/ヘッジ・アルファ戦略におけるオーバーウェイト及びアンダーウェイトを示します。

債券運用戦略

種別	比率	属性	
社債	33.32%	実効デュレーション	0.68年
国際機関債等	28.96%	組入銘柄数	72
米国国債	19.20%		
米国政府機関債	7.42%		
現金	11.10%		
その他	0.00%		
合計	100.00%		

※米ドルベース

※四捨五入の関係で、合計は100%にならない場合があります。

定義:

・「実効デュレーション」は、当ファンドの金利変化に対する感応度を示す指標です。

・「オーバーウェイト、又はアンダーウェイト」は、セクターや銘柄の保有ウェイトをベンチマークと比較して高める、又は低めることを示します。

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書



設定・運用 : ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

ファンド・マネジャーのコメント

【投資環境】

＜コモディティ市場全体＞

2月のコモディティ市場は下落しました。畜産物セクターを除く幅広いセクターが値下がりしましたが、特に産業金属や貴金属セクターの下落が目立ちました。

＜セクター別＞

エネルギーセクターでは、一般的に価格が下落しました。原油の在庫は、季節要因や米国の戦略的備蓄の売却計画の再開により増加傾向にあります。ロシアが発表した減産についても、市場ではこれが世界の供給量に大きな影響を与えないと見られています。旧正月明けの中国の需要も依然として軟調です。天然ガスは、月後半の米国での吹雪と寒波により、需要増の見通しから価格が一定程度回復しましたが、市場では十分な供給量が保たれています。

産業金属セクターは一般的に大幅に下落しました。中国の需要は依然として低調であり、回復にはもう少しばかりかかるでしょう。アルミニウムや銅は、中国雲南省による精錬所への電力供給の削減や、銅鉱石の採掘業者による採掘停止などにより、供給が不安定化する懸念があります。

貴金属セクターも一般的に下落しましたが、特に銀の値下がりが目立ちました。また、自動車需要が引き続き低迷していることから、パラジウムにとっても厳しい環境が続いています。

農産物セクターでは、コーヒーを除く多くのコモディティが下落しました。穀物価格、特に小麦の下落が目立ちました。一方、コーヒーは、ブラジルでの大雨が収穫に悪影響を及ぼすとの懸念から、堅調に推移しました。

畜産物セクターは、上昇しました。生牛価格は上昇し、豚赤身肉価格は若干下落しましたが、ともに、鳥インフルエンザの感染拡大懸念により、鶏肉や鶏卵の高値が続いていることが下支え要因となっています。

【運用経過】

市場全体に対するエクスポージャーを引き下げ、コモディティ全体に対して慎重なスタンスを取りました。個別コモディティでは、金や銅等に対して、強気なポジションを取りました。一方で、天然ガスやWTI原油、ブレント原油等に対しては、慎重な見方に基づくポジションを取りました。

【今後の見通し】

＜コモディティ市場全体＞

米国の経済成長とインフレは続いており、市場では幅広いリスク性資産の価格について再評価が行われています。コモディティ需要についても再考の余地があり、ウクライナ戦争、天候、中央銀行による金融引き締めなどの影響に左右される値動きが続いています。米連邦準備制度理事会(FRB)からのコメントは依然としてタカ派的で、利上げの継続が視野に入っており、市場は、間もなく景気後退に陥り需要が減退する可能性を織り込み始めています。中国はゼロコロナ政策を突然終了させました。その完全な実行には数四半期かかると予想されていますが、需要に重要な影響を及ぼすでしょう。また、市場は中国の景気回復によりコモディティ需要が増加すると期待していますが、その時間軸と幅については、短期的な急上昇というよりも長期的な上昇となるでしょう。

＜セクター別＞

エネルギーセクターについては、原油の現物市場ではまだ供給過剰感があり、これは今年の第2四半期まで続くと思われる。中国では個人消費の回復が続いており、今年下期には中国からの需要が上向くと予想しています。一方、供給面では、比較的安定した状況が続いています。原油価格は、当面、現在の水準を中心としたレンジ相場で推移する可能性が高いと予想されます。天然ガスについては、引き続き天候が目先の価格の動きに大きく影響します。米国からの輸出量の伸びが足元の価格回復に寄与しているものの、3月と4月の天候が平年並みに戻れば、この強さも薄れるものと思われる。

産業金属セクターについては、低水準の在庫、供給リスク、強力な政策支援等により、引き続き堅調な展開が見込まれます。しかしインフレ率の上昇と利上げが続くと、ある時点で強気見通しの転換を迫られることとなるでしょう。今のところ需要は堅調で、経済データも高い回復力を見せています。一方で、先進国、特に米国の経済・労働市場データが堅調であり、このままインフレが沈静化しなければ、中央銀行が金融引き締めを継続するというリスクがあります。

貴金属セクターでは、金が、短期的には金利上昇が逆風となる可能性があるものの、市場の混乱や先進国市場の景気後退リスクに対して、引き続き魅力的な資金逃避先となっています。世界の主要中央銀行が今年の利上げペースを減速させ、中国やロシアの中央銀行が分散効果を求めて金地金の購入を増やせば、より多くの投資家が金先物市場に参加してくると見込まれます。しかし、インフレや労働市場のデータ、またFRB高官の発言が穏当なものでなければ、貴金属セクターのパフォーマンスの足かせとなるかもしれません。

農産物セクターは、価格上昇の中でも需要は強まっています。市場では、米国中央部での深刻な干ばつによる冬小麦の収穫量の減少や、今春のロシアの攻勢でウクライナの穀物の作付が混乱するリスクに注目が集まり始めています。当社では市場価格が堅調に推移すると見込んでいます。

畜産物セクターは、中国経済が再開し、豚肉と牛肉の需要が増加する中、供給サイドには増加要因がないため、価格は今後上昇すると予想されます。最近の鳥インフルエンザの発生も、このセクターにとっての追加的な強気要因となっています。

※コメントは、DWSインベストメント・マネジメント・アメリカズ・インクの資料をもとにしており、DWS インベスト エンハンスト・コモディティ・ストラテジーに関するものです。
※将来の市場環境の変動等により、上記運用方針が変更される場合があります。

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書



設定・運用 : ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

ファンドの特色

1 ファンドは「DWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー」^{※1}を主要投資対象とし、世界のコモディティ(商品)^{※2}市場への投資を通じ、信託財産の成長を目指して運用を行います。

※1 ルクセンブルグ籍外国投資法人

※2 コモディティ(商品)とは、農産物類(小麦、とうもろこし、大豆等)、エネルギー類(原油、天然ガス等)、産業金属類(銅、アルミニウム等)、畜産物類(生牛、豚赤身肉等)、貴金属類(金、銀等)等を指します。

2 Aコース(為替ヘッジあり)とBコース(為替ヘッジなし)があります。

(注1) 販売会社によっては、Aコース、Bコースどちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。

(注2) 各ファンド間でのスイッチングの取扱いは販売会社により異なります。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。

3 ファンドはファンド・オブ・ファンズ的方式で運用を行います。

主要投資対象である「DWS インベスト エンハンスド・コモディティ・ストラテジー」の特色は以下の通りです。

- 主としてコモディティ(商品)市場に実質的に投資を行い、Bloomberg Commodity Index Total Returnを上回る中長期的な成長を目指して運用を行います。
- 実質的にコモディティ(商品)市場への投資効果を達成するために、デリバティブ取引等を活用し、農産物類、エネルギー類、産業金属類、畜産物類、貴金属類をはじめとする幅広いコモディティのセクターに投資を行います。
- 運用資産総額の100%を上限とし、債券、短期金融資産及び現預金等に投資する場合があります。
- 外貨建資産について、原則として円ヘッジシェアクラスは対円での為替ヘッジを行います。円ヘッジなしシェアクラスは対円での為替ヘッジを行いません。
- DWSインベストメント・マネジメント・アメリカズ・インクが運用を行います。DWSインベストメント・マネジメント・アメリカズ・インクはドイツ銀行グループの資産運用部門の米国における拠点です。グローバルなネットワークを駆使し、投資家の多様なニーズに応える商品開発と優れた運用実績の実現を目指します。

※ ファンドは、主要投資対象とする投資信託証券の他に、「ドイツ・円・マネー・マーケット・マザーファンド」にも投資を行います。

(注) 市況動向及び資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書



設定・運用 : ドイツ・アセット・マネジメント株式会社

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元金が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。当ファンドに生じた利益及び損失は、すべて投資者に帰属します。基準価額の変動要因は、以下に限定されません。なお、当ファンドは預貯金と異なります。

① コモディティ(商品)市場特有のリスク

コモディティ(商品)の価格は、様々な要因(需給関係や為替、金利変動等)により大きく変動します。これらの要因のうち、需給関係は、天候、作況、生産国(産出国)の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を大きく受けます。コモディティ(商品)の価格が下落した場合は、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

② 為替変動リスク

外貨建資産の価格は、為替レートの変動の影響を受けます。外貨建資産の価格は、通常、為替レートが円安になれば上昇しますが、円高になれば下落します。したがって、為替レートが円高になれば外貨建資産の価格が下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。Aコースについては、原則として対円での為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りますが、基準価額への影響がすべて排除されるわけではありません。また、ヘッジ対象通貨と円との金利差等が反映されたヘッジコストがかかり、基準価額の下落要因となることがあります。Bコースについては、原則として対円での為替ヘッジを行いませんので、基準価額は為替変動による影響を直接受けます。

③ デリバティブ取引のリスク

当ファンドが主要投資対象とする外国投資信託証券では、デリバティブ取引(先物、スワップ、オプション等の金融派生商品)を活用します。デリバティブ取引の利用はヘッジ目的に限定されず、効率的な運用を目的としても用いることがあります。デリバティブ取引による運用は、原資産の価格変動・下落の影響をより大きく受けることがあり、その結果損失が発生し、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。また、取引の精算に係る費用がファンドの基準価額の下落要因となることがあります。

④ 信用リスク

債券価格は、発行者の信用状況等の悪化により、下落することがあります。特に、デフォルト(債務不履行)が生じた場合または予想される場合には、当該債券の価格は大きく下落(価格がゼロとなることもあります。)し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

また、スワップ取引においては、スワップカウンターパーティの信用リスクが存在します。なお、スワップ契約の多くは契約担保の提供をスワップカウンターパーティに求める内容となっており、万が一スワップカウンターパーティが破綻しても、受け入れた担保を換金することで損失が軽減される仕組みとなっています。

⑤ 金利変動リスク

債券価格は、通常、金利が上昇した場合には下落傾向となり、金利が低下した場合には上昇傾向となります。したがって、金利が上昇した場合には、保有している債券の価格は下落し、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

⑥ カントリーリスク

投資対象国の政治、経済情勢の変化等により、市場が混乱した場合や、組入資産の取引に関わる法制度の変更が行われた場合等には、有価証券等の価格が変動したり、投資方針に沿った運用が困難な場合があります。これらにより、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

⑦ 流動性リスク

急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できないことがあります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。

その他の留意点

- 当ファンドが主要投資対象とする外国投資信託証券では、デリバティブ取引を活用してその信託財産の純資産総額を超過してコモディティ(商品)への投資を行うことがあります。したがってコモディティ(商品)市場の価格変動の影響をより大きく受けることがあります。
- 各ファンドの資産規模に対して大量の購入申込み(ファンドへの資金流入)または大量の換金申込み(ファンドからの資金流出)があった場合、基準価額の変動が市場動向と大きく異なる可能性があります。
- 当ファンドは、大量の換金が発生し短期間で換金代金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性等があります。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超過して支払われる場合があり、その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

P-221116-1S

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)



追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書

設定・運用 : ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

お申込みメモ

- 申込締切時間/ 購入・換金申込 受付不可日
原則として、販売会社の営業日の午後3時までに購入申込み・換金申込みが行われ、販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分として取扱います。ただし、ルクセンブルグの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休業日に該当する日には、受付を行いません。
- 購入価額
購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- 購入単位
販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
- 信託期間/
信託設定日(2018年10月15日)から無期限
- 繰上償還
ただし、各ファンドについて残存口数が10億口を下回ることとなった場合、受益者のために有利であると委託会社が認める場合またはやむを得ない事情が発生した場合には、信託を終了させていただくことがあります。
- 決算日
原則として毎年3月5日(休業日の場合は翌営業日)とします。
- 収益分配
年1回の毎決算時に、信託約款に定める収益配分方針に基づいて行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。
(注)将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
- 換金価額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額
- 換金単位
販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問合せ下さい。
- 換金代金
原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社においてお支払いします。
- 課税関係
課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。
原則として、分配時の普通分配金並びに換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して課税されます。
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA)の適用対象です。ただし、NISAで取り扱っている商品は販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にご確認下さい。
(注)法人の場合は税制が異なります。税法が改正された場合等には上記の内容が変更されることがあります。

ファンドの費用

時期	項目	費用	
投資者が直接的に負担する費用			
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.85%(税抜3.5%)を上限 として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額	
換金時	信託財産留保額	ありません。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用			
毎日	運用管理費用 (信託報酬)	実質的な負担 (①+②)	信託財産の純資産総額に対して年率 1.803%程度(税込)
		①当ファンド	信託財産の純資産総額に対して年率1.243%(税抜1.13%)
		②投資対象とする 投資信託証券	信託報酬等:実質年率0.45%以内 その他の費用*:年率0.11%以内 ※信託事務の処理等に要する諸費用、管理報酬、保管報酬、租税等をいいます。
	その他の費用・手数料		当ファンドにおいて、信託事務の処理等に要する諸費用(ファンドの監査に係る監査法人への報酬、法律・税務顧問への報酬、目論見書・運用報告書等の作成・印刷等に係る費用等を含みます。以下同じ。)、租税等がかかります。また、組入ファンドにおいて、法律顧問への報酬、組入資産の売買委託手数料、対円で為替ヘッジに係る報酬、スワップ取引に係る諸費用、租税等がかかります。これらは原則として信託財産が負担します。ただし、これらの費用のうち当ファンドの信託事務の処理等に要する諸費用の信託財産での負担は、その純資産総額に対して年率 0.10%を上限 とします。 「その他の費用・手数料」は、運用状況等により変動するものであり、一部を除き事前に料率、上限額等を表示することができません。

※収益分配金を再投資する際には購入時手数料はかかりません。

※「税」とは、消費税及び地方消費税に相当する金額のことを指します。

※投資者の首様が負担する費用の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他の関係法人

- 販売会社: 当ファンドの募集の取扱い等を行います。投資信託説明書(交付目論見書)の提供は、販売会社にて行います。販売会社につきましては、委託会社にお問合せ下さい。
- 委託会社: ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第359号
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
信託財産の運用指図等を行います。
ホームページアドレス <https://funds.dws.com/jp/>
- 受託会社: 野村信託銀行株式会社
信託財産の保管・管理等を行います。

P-221116-1S

<ご留意事項>

投資信託のお申込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はおお客様ご自身の責任においてなさいませうお願い申し上げます。

■ 当資料はドイチェ・アセット・マネジメント株式会社が作成した資料です。■ 当資料記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。データ等参考情報は信頼できる情報をもとに作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。また、使用しているデータについては特段の注記の無い限り、費用・税金等を考慮してありません。■ 当資料記載の内容は将来の運用成果等を保証もしくは示唆するものではありません。■ 投資信託は、株式、公社債などの値動きのある証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されるものではありません。投資信託の運用による損益は、すべて投資信託をご購入のお客様に帰属します。■ 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。■ 投資信託は、預金または保険契約ではないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。■ 登録金融機関を通じてご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。■ ご購入に際しては、販売会社より最新の投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身で判断して下さい。

DWS コモディティ戦略ファンド(年1回決算型)

Aコース(為替ヘッジあり)/Bコース(為替ヘッジなし)

追加型投信/内外/その他資産(商品)

月次報告書



設定・運用 : ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社

当ファンドの販売会社は以下の通りです。

(五十音順)

金融商品取引業者名		登録番号	加入協会				備考
			日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第61号	○	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第44号	○		○	○	
株式会社SBI新生銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第10号	○		○		委託金融商品取引業者: 株式会社SBI証券 マネックス証券株式会社
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第53号	○	○	○	○	一般社団法人日本暗号資産取 引業協会に加入しています。
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第152号	○	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長 (登金)第624号	○		○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第164号	○		○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第165号	○	○	○	○	
三菱UFJモルガン・スタン レー証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第2336号	○	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商)第195号	○	○	○	○	